

平成 21 年 3 月 26 日（木）
財団法人電気安全環境研究所
電 磁 界 情 報 セ ン タ ー

大阪会場 プログラム一部変更のお知らせ

第 2 回電磁界情報センターシンポジウム－WHO からのメッセージ（2009. 3. 26 大阪会場）のプログラムが一部変更となりましたのでお知らせ致します。

《 変更後 プログラム 》

- 13:00－13:10 開会挨拶 電磁界情報センター 大久保センター所長
- 13:10－13:25 リスクコミュニケーションにおける分かりやすいコンテンツとは
国際高等研究所フェロー 木下 富雄氏
- 13:25－13:55 電磁界のリスク評価～IARC（WHO）のリスク評価手法とその手順～
弘前大学大学院教授 宮越 順二氏
- 13:55－14:20 環境保健基準を日本でどのように活かすべきか
電磁波問題市民研究会事務局長 大久保 貞利氏
- 14:20－14:45 電磁界への念のための（Precautionary）政策
野村総合研究所上級コンサルタント 長田 徹氏
- 14:45－15:10 WHO の環境保健クライテリアとファクトシート
電磁界情報センター 大久保センター所長
- 15:10－15:20 休憩
- 15:20－16:25 総合討論
- 16:25－16:30 閉会挨拶 電磁界情報センター 大久保センター所長

以 上

リスクコミュニケーションにおける 分かりやすいコンテンツとは

(財)国際高等研究所
木下富雄

リスクコミュニケーターと住民が ともに抱える悩み

- 科学技術に関するリスコミで、発信側(技術者)も受信側(市民)もともに抱える問題がある
- 技術者は科学技術をいくら説明しても市民に分かって貰えないという不満や悩み
- 市民はいくら説明を聞いても分からないという不満
- それは技術者の説明が下手だから？
- 市民の知識水準が低いから？
- そもそも内容が難しすぎるから？
- コミュニケーションの立場からいえば、コミュニケーションの効果は受け手によって決まる

分かりにくい用語や概念

- まずリスク概念を支える確率の概念が理解できない
- それと関係して危険性の程度が分からず2値的判断になりやすい
- 分かりにくい専門用語の例(電磁界関連): テスラ、しきい値、曝露評価、確率的影響と非確率的影響、寿命損失、体内誘導電流、個人リスクと集団リスク、疫学的研究、プール解析、予防原則など
- 分かりにくい現象の例: 電磁界を始めとして、放射線、遺伝子組み換えなど目に見えにくいもの

分かりにくい論理構成

- 放射線の被害の程度、化学物質の発がん性、原発の事故の程度などを示すグレードづけの論理が理解されにくい
- 今回の例では、WHOの超低周波電磁界環境保健クライテリアによる、低周波電磁界のリスクは2B(発がん性があるかも知れない)という位置づけが難解
- これはヒトへの発がん性を示す根拠が限定的であり、動物実験での発がん性に対しても十分な根拠がない場合に割り当てられる
- しかしこの論理は一般市民には理解しづらい

- この表現を電磁界の言葉に置き換えると、低周波電磁界への曝露と発がんの間には明確な因果関係は認められない。リスク管理の選択肢として磁界低減策を実施しても、低減により小児白血病発症が減少するという健康上の便益は不明ということになる
- この説明を聞けばますます分からなくなる
- ではこのような科学的説明の代わりに、これはWHOが世界中からその道の専門家を集めて慎重に検討した結果だからそれを信用しようといえかどうか
- また2Bのリスクは漬け物やコーヒーと同程度という表現をすれば納得してもらえるか

分かりにくい用語の平易化の試み

- 分かりにくい専門用語を平易にする試みは、すでにあちこちで試みられている
- 日本弁護士連合会は法廷用語の日常化に関するプロジェクトで、「やさしく読みとく裁判員のための法廷用語」を出版
- 国立国語研究所は、「病院の言葉の手引き」を出版計画中
- 日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所リスクコミ室でも、原子力用語の平易化の実験中
- 東大の高田毅士たちのグループは「技術説明学」という分野を開拓中
- 電磁界については大阪科学技術センターの電磁界調査研究委員会が解説書を出版

用語を平易化するだけでは 問題は片付かない

- 専門用語を平易化するの大切だが、それだけでは問題は片付かない
- 大切なのは受け手の思考様式に合わせた論理展開である。リスコミは学会の発表ではない
- 大野和子は放射線診療時における経験から、患者の質問の意図と解決を望む内容を把握する必要があること、患者の用語法が間違っているとしてもすぐに正さないことの重要性を指摘
- さらに必要なのは、このようなリスクをどうすれば低減できるかという対処法を説明すること

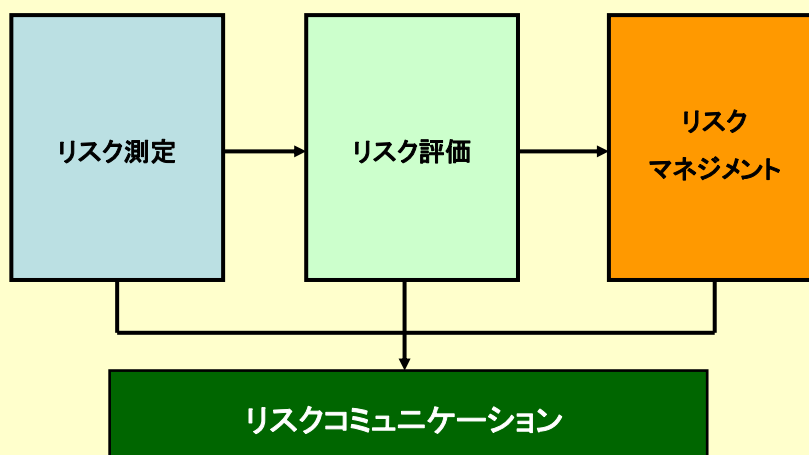
ではどうする

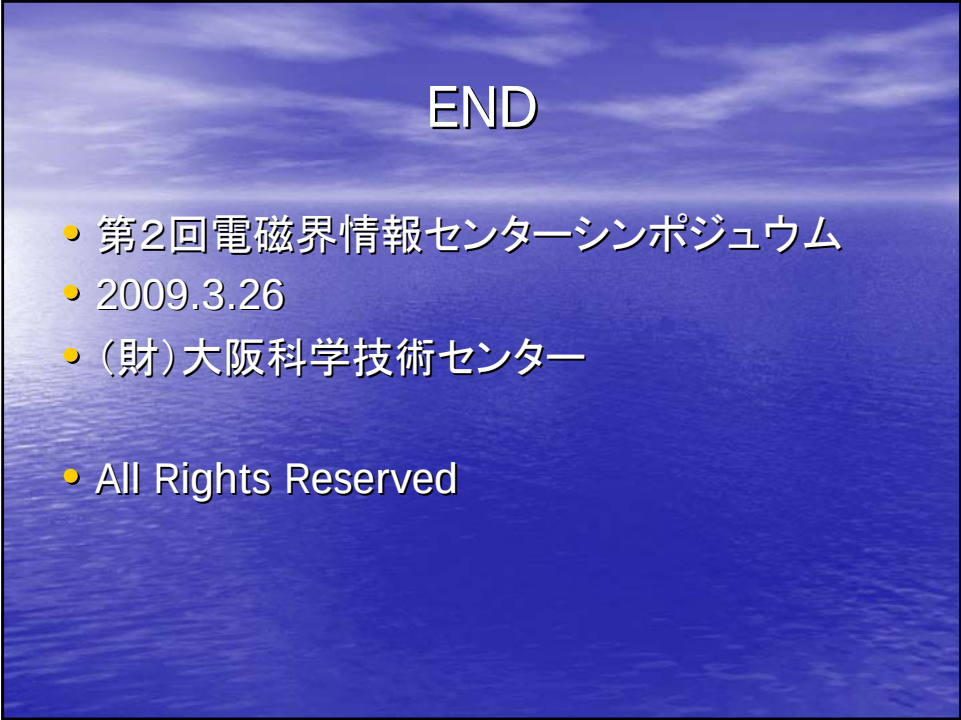
- 専門性の高い問題について理解を進めるには、技術の専門家が考えるだけではなく、認知心理学やコミュニケーション学の援助が必須
- なによりも大切なのは、不安を持つ市民とのコラボレーションで、用語の平易化や論理構成を考えることではないか
- リスクコミュニケーションの基本精神の1つが、関係者間の双方向的なコミュニケーションによる情報の共有と、問題解決に向けての共考にあることを改めて想起する必要
- 結局は「信頼性」の問題に行き着く

今回のシンポの構成

- リスク研究には3つの段階がある
- すなわち、リスク測定、リスク評価、リスクマネジメント。そのそれぞれに関わるのがリスクコミュニケーション
- 前二者は科学に基礎があるが、後者にはそれに社会的・政策的価値判断が加わる
- 宮越さんの発表は主としてリスク測定と評価の部分
- 大久保(貞)さんと長田さんの発表は主としてマネジメントの部分
- 大久保(千)さんの発表は測定、評価、マネジメントを繋ぐ全体の構造

リスク分析の流れ



The background of the slide is a blue gradient with a subtle texture of clouds and water ripples.

END

- 第2回電磁界情報センターシンポジウム
- 2009.3.26
- (財)大阪科学技術センター
- All Rights Reserved